えきもん通信 No.39 2019年春号 http://www.ekisaikai-moji.jp

門司掖済会病院広報誌

なごみ

〒801-8550
北九州市門司区清滝1丁目3番1号
代表 電話 093－321－0984
FAX 093－331－7085
一般社団法人 日本海員掖済会
門司掖済会病院

新米院長です どうぞよろしくお願い申し上げます

院長 藤井（ふじい） 健一郎（けんいちろう）

本年4月1日付けで、阿部 功前院長（現名誉院長）の後任として、門司掖済会病院の院長に就任いたしました藤井と申します。私は2016年の7月に副院長（内科）として赴任し、当院での勤務は3年にもなりませんが、実は昭和58年(1983年）に短期間ですが、勤務したことがあります。当時に比べますと、現在は門司港レトロなどの取り組みにより港周辺は随分賑やかになった（門司港駅もリニューアルオープンしました）と感じますが、一歩入りますといわゆるシャッター街の様相で、少子高齢化、人口減少の影響による寂しさは否めません。ただし、住民の皆様の温かいお気持ちには何も変わりはなく、その点は嬉しく感じております。

掖済（エキサイ）という言葉は聞き慣れないと思いますが、「掖」は脇、「済」は助けるという意味で「脇に手を添えて助ける」という意味があります。当院は以前は船員とその家族を対象としておりましたが、現在は一般市民も変わりなく診療を行っております。創設110年余、清滝に来てもうすぐ100年を迎えます。

65歳以上の高齢化率は2018年半ばで門司区で36.3％、門司港地区ではなんと38.6％です。これは日本全体の予測では2040年頃のほぼピークの値に相当し、その後は人口減少が加速すると推測されます。このような状況では、病院は病を治すのはもちろんですが、一人一人の皆様が出来るだけ長くご自宅など住み慣れた地域で、豊かで意義のある時間を過ごしていただくことにつながるような医療を行っていく必要があると強く感じております。このために、当院は，急性期医療だけではなく、地域包括ケア病棟を活用して、さらにかかりつけの先生方や地域の医療・介護施設との連携を深めて、医療・介護・住まい・生活支援を一体的に提供できましたらと考えております。

地域の住民や医療機関の皆様の信頼を深められますよう、掖済とおもてなしの精神で職員一同頑張っていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

婦人科を受診するタイミングについて

副院長
婦人科　木原　郁夫

よほど気になる症状がなければ、なかなか足の向かない婦人科ですが、こんな症状が出たら受診しましょう。

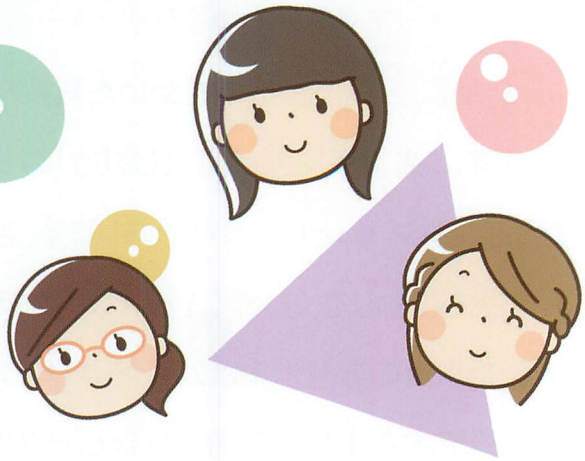
月経の量が増えて、2時間以内で、生理用品を交換しなければならないほどになると、筋腫などが原因の貧血になっているかもしれません。婦人科での貧血や超音波検査を受けましょう。

月経以外の出血や閉経後の出血は、子宮頸癌や子宮体癌の検査が必要です。この検査で異常なければ、卵巣機能の異常や閉経後の膣炎のことが多く、薬でコントロールが可能です。出血の色や頻度だけでは、病気かどうかの判断はできません。

下腹部が出てきたり、尿が近くなる時は、大きい子宮筋腫や卵巣腫瘍等による腫瘤の圧迫があるかもしれません。超音波検査が必要です。いきんだりした時に、何か下がってくる感じがするときは、子宮や膀胱壁、直腸壁が膣から下がってきているかもしれません。年齢に伴い多くなりますが、恥ずかしいためか受診が遅れ、かなり進行して来られる方が多いようです。早期であれば外来での治療や予防も可能です。進行した場合は、メッシュを使用した手術療法等が必要になることがあります。早めに受診されてください。

子宮頸癌は前癌状態から、癌になるまで数年を要するので、毎年癌検診を受けることで、癌になる前に治療することができます。子宮癌になっても、長期間症状が何も出ないこともあります。子宮頸癌ワクチンを接種していない方は、2年間以上検診を受けないと進行癌になってしまってから見つかることもあります。

少なくとも2年に1回は定期がん検診を受けましょう。



新年度を迎え、当院では
医師、医療技術者、看護職員
合わせて13名の新入職員が
入職しました。
どうぞよろしくお願いします。

新入職員紹介・院長あいさつ

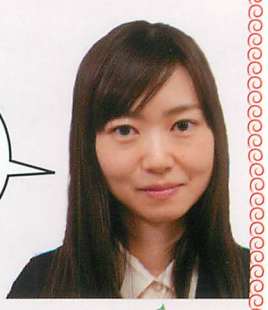
医師交代

入職

大津　悠里（おおつ　ゆり）

- 腎臓内科
- 平成 27 年卒
- 趣味：旅行

今年度から腎臓内科医として
勤務することとなりました。
新米ですが、患者様に
寄り添える医師になれるよう
日々精進していきたいと思います。
よろしくお願いします。



退職

今村　克郎（腎臓内科）